

区政Now! (令和3年7月号)

「区政は区民を幸せにするシステムである」・・・西川太一郎

発行：荒川区

区政Now!



新型コロナウイルス感染症が再拡大の傾向となっております。区民の皆様におかれましては、引き続き、感染防止に努めるようお願いいたします。

区では、国の接種スケジュールが急きょ前倒しとなったことに伴い、16歳以上65歳未満の方等の接種券について、前倒しで発送することにより対応いたしました。

今後も、感染拡大防止、円滑なワクチン接種、事業者支援等に全庁一丸となって取り組んでまいります。

● 新型コロナワクチンの接種のスピードをさらに加速させるため、体制を整備しています

- ◇ 7月1日現在、区では、ファイザー社製のワクチンを使用して、6か所の会場で集団接種を実施しています。このたび、モデルナ社製のワクチンが国から供給されることになったため、これまでの会場に加え、新たに5か所開設します。
- ◇ お近くの病院・診療所等（78医療機関）でワクチン接種を行う「個別接種」及び在宅要介護者等を対象とした自宅へかかりつけ医等が訪問しワクチン接種を行う「訪問接種」を、区内の医療機関のご協力をいただき、6月14日から開始いたしました。
また、知的障がい者の方等が慣れた場所でワクチン接種を受けることができるよう、生活実習所等の施設へ医師・看護師が訪問して接種を行います。

● 新型コロナウイルス感染症拡大防止をしながらの熱中症予防

- ◇ 熱中症は重症化すると命に関わる危険な病気です。急に暑くなり始めた時期は、特に注意が必要です。
- ◇ 新型コロナウイルス感染症拡大防止のためには、エアコン使用中も、こまめな換気が必要です。
 - *窓とドアなど2か所を開ける
 - *扇風機や換気扇を併用する
 - *換気後は、エアコンの温度をこまめに再設定
- ◇ 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、外出時にはマスクの着用が必要ですが、のどの渇きを感じにくくなるため、脱水が進みます。マスクを着用している時は、飲み物を携帯し、のどが渇く前からこまめに水分補給を行いましょう。また、屋外で人と十分な距離（おおむね2メートルを目安）を確保できる場合には、適宜マスクを外して、意識的に涼むことを心がけましょう。

注一般的な家庭用エアコンは、室内の空気を循環させるだけで換気は行っていません。

【熱中症の簡単セルフチェック】

皮膚の弾力は、体内の水分状況を反映しています。定期的を確認し、脱水を予防しましょう。



主な事業

● 区の安全・安心パトロールの隊員が、特殊詐欺を未然に防ぎました

- ◇ 5月10日13時40分頃、区の安全・安心パトロール（通称「青パト」）の隊員が、パトロール中、無人ATMにおいて携帯電話で通話しながらATMを操作している高齢男性を目撃しました。すぐに声掛けし、ATMの操作を中断させるとともに警察に連絡し、特殊詐欺の被害を未然に防ぎました。青パト隊員が被害を防いだのは4月に続き、これが2度目です。
- ◇ 高齢男性は、最初に、区役所職員を騙る者から医療費3年分の還付金があるとの電話を受け、その後、銀行員を騙る者からATMで医療費の還付金の手続きをする必要があるとの電話を受けました。指定された無人ATMへ誘導され、携帯電話での指示に従って振込みをしているところを青パト隊員が発見し、声掛けを行いました。
- ◇ 現在も親族や区役所職員・警察官をかたった特殊詐欺が多発しています。区役所では、医療費などの還付金の連絡を電話のみで知らせることはありません。また、「携帯電話を持ってATMに行ってください」とお願いすることはありません。ATMで還付金は戻りません。一人で判断せず、家族や警察に相談しましょう。

● 潮来市との田植え交流会「今年の夏は！おうちで稲作」を開催しました

- ◇ 5月22日、荒川公園展示場で、荒川区の交流都市である茨城県潮来市との田植え交流会「今年の夏は！おうちで稲作」を開催しました。
- ◇ 例年は希望者が潮来市へ訪問し、田植体験をする交流都市区民ツアーを実施していますが、昨年度に引き続き、今年度も新型コロナウイルス感染症の影響で中止となってしまいました。そのため、今年度は区内在住の小中学生と保護者を対象に、潮来市のお米の苗とバケツ、土、肥料を配付し、自宅でお米の苗植えから稲刈りまでを行う「バケツ稲づくり」に形を変えて実施することとしました。
- ◇ 参加者は、区公式チャンネルに登録された田植え・栽培、管理方法等の説明動画を見ながら、バケツの中で田植えから稲刈りまでを体験します。
- ◇ 稲刈りまでの間、リモートで潮来市による稲の生長状況の確認や栽培指導等の相談会を行い、9月下旬に収穫した稲穂を持ち寄った成果発表会を行います。
- ◇ また、参加者から稲づくり等の成果写真を提出してもらい、秋の交流都市パネル展で展示する予定です。
- ◇ 今後も、リモート等を活用した新しい形を工夫し、交流都市との交流を深めてまいります。



配付したセット



バケツで田植えをする様子